

納得のいくまで情報収集を

館崎慎一郎

千葉県がんセンター診療部長

現在の医療は、患者さんが中心に存在し、患者 - 医療者のパートナーシップの体制のもとに行われています。実際には、患者さんは医療者から、病名を含む病気の状態、病気の診断までの過程、診断後の治療法の実際の選択肢の提示、それぞれの治療の副作用や治療終了後の予想される状態、予後の実際などにつき説明を受けた後、患者さんは自分が受ける医療を自己決定し、選択することになります。

患者さんは医療者から受けた説明から、自分が受ける医療を選択しなければならないのですから、選択するためには様々な情報が必要になります。まず第一の情報は医療者からの説明になります。医療者からの説明が十分であれば、患者さんは簡単に自らが受ける治療法を選択できるかもしれません。しかし、医療者からの説明が十分と言えないこともあるのは事実であります。患者さんは自分が受ける医療を選択するために情報を収集しなければなりません。

情報には教科書や雑誌からの情報、米国国立がんセンターからの標準的治療法とその治療成績などをインターネットで検索、元患者さんからの情報、他の医療施設の医療者からの情報（セカンドオピニオン）などが考えられます。情報が過多になると頭でっかちになって、かえって迷うことになるかもしれませんが、現在の医療には不確実な点多々ありますので、患者さんやご家族は納得のいくまで情報収集して頂くのが良いと考えております。

インターネットなどを駆使できる方はよいのですが、一般の方に情報収集が簡単にできるような環境整備が病院内になされている必要があると考えており、今年5月から「患者さん用図書室（にとな文庫）」を開設しました。まだ、内容は不十分ですが、職員用図書室の司書さんにも協力して頂き、患者さんが必要な情報を提供できる体制を整備していきたいと考えております。